

「OB・OG の交流広場」に寄せて

丹羽明彦

京都大学 2005 年卒の丹羽です。国公立大学 OB・OG 卓球大会に一度も参加したことのない身で寄稿するのは大変心苦しいのですが、国公立大学卓球連盟の理事長を務められている大先輩の長内さんからご指示いただきましたので、寄稿させていただきます。

岩城さんの後にこんなのが出てきてしまって申し訳ございませんが、私は現在卓球を全くやっておりません。長男・次男が少年野球を始めたことから、週末はコーチとして勤め先の競合企業である M 社の製品で身を固めて、朝から暗くなるまで野球漬けの日々を送っております。平日も練習場所や大会の確認、保護者への案内、チームを卒団する子たちの動画作成などなど、野球一色です。

こんな私も大学時代は卓球漬けの毎日。国公立大学卓球連盟の「海外遠征」(欧州)参加を最大の目標に練習に励み、3年の時に念願かなって参加することができましたが、この遠征は自分にとって非常に大きなターニングポイントでした。現地の人達はとにかく卓球を楽しんでおり、翻って勝ち負けにこだわっていた自分が馬鹿らしく思えたことを覚えています。戻ってからはそれまでより卓球を楽しめるようになり、無駄な力が抜けたからか試合での結果も上向きに。現役最後の第 44 回全国公大会では男子シングルス優勝という信じられない結果を残すことができました。

就職後しばらくは卓球を続けていましたが、結婚して子供が生まれた頃から練習時間が減り始め、2人目ができた頃からは完全に卓球から離れる状態となりました。3年ほどそういう時期が続きましたが、転機は同期の主将であった足立さん(第 43 回全国公大会男子ダブルス優勝、男子シングルス準優勝)の結婚式。当時タマス(バタフライ)で顧問を務められていた恩師である西田薫先生(元京都大学卓球部監督)と話したことから、それまでとは違う卓球熱が生まれました。「卓球を仕事にできるんだ!」と。そこからは押しかけるようにバタフライに入社させて頂き、現在は築地佑太さん(東北大学卓球部OB)他沢山の国公立大学卓球部出身のOB・OGといっしょに、別の意味で卓球漬けの日々を送っております。プレーはしていませんが、中学で卓球を始めたときから、自分の人生は卓球という素晴らしい競技のおかげで成り立っています。卓球と、卓球を通して出合った方々のご縁には本当に感謝です。なんやかんや、死ぬまで卓球から離れることは無いんでしょう。

3人目の子供も卓球をやる気配は微塵も感じられず、来月(2022年4月)に産まれてくる4人目はどうなるか、当分は野球から離れられないため、卓球関係の交流の場に直接参加することは難しいと思いますが、卓球に関わるものとして何らかの形でサポートしていければと。いけるかな?(笑)